

福井新聞 平成23年 5月14日

## 福井窯業 株式会社

# 笏谷石 風合い味わって

福井窯業(福井) 食器40種開発、販売

福井市の足羽山周辺で産出され、古くから建築資材などに利用されてきた笏谷石の文化を後世に残そうと、屋根工事業の福井窯業(本社同市田原2丁目、近藤登幹社長)は、笏谷石を加工した食器を開発、販売を始めた。茶わんやそば器、ヒアマグなど40種類に「再生」、福井のPRにもあたっては薄さを追求。水が染みこまないよう表面にはコーティング加工を施した。ただ、笏谷石は水にぬれると美しい青色に変色する特徴があるため、おちよこなどは加工を施さず、石の風合いを楽しんでもらう。専門機関で衛生面の検査も受けている。

笏谷石を加工し製作した茶わんや箸など。福井市田原2丁目の福井窯業



また、柴田勝家が足羽「石」であったことから、川に築いた九十九橋が笏谷石の持ち手の一部に笏谷石を谷石と木による「半木半」使った「九十九簀」も製作した。価格は、おちよこ3600円、箸3千円、湯飲

みと茶托のセット1万円など。受注販売のほか、関心のある方に対しては東京の県産品アンテナショップ「ふくい南青山291」に並べている。近「たい」と話している。藤社長は「歴史や文化に